

# 令和6年度 小平市立上宿小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** ◎かしこい子 豊かな情操に支えられた創造的思考力の育成 ○やさしい子 相手の心情を考えるやさしさと連帯感の育成  
○がんばる子 ねばり強く追求する意志力の育成 ○じょうぶな子 心身ともに健康で前向きに生きる力の育成

## 目指す学校像(ビジョン)

【目指す学校像】 「楽しい」「明日も来たい」上宿小 ～学校にかかわるすべての人が～  
【目指す児童・生徒像】 めあてをもって主体的に学ぶ上宿の子～思いやる心をベースにして～  
【目指す教師像】 人を大切に、魅力ある授業を実践しようとする教員

## 前年度までの学校経営上の成果と課題

○9割の児童が学校に楽しく登校していると感じている。 ○主体的に学ぶ授業を校内研究で取組み、「～たい」を大切に学習のイメージができた。  
▲児童の基礎的・基本的な学習内容の定着が十分ではない。 ▲コミュニティ・スクールとしてプロジェクトチームの取組は行えているが保護者・地域の方々のコミュニティ・スクールに対する認知が不十分である。

|          | 具体的方策                                                                | 第1回評価 |      | 成果・課題と対策                                                                                                                              | 第2回評価 |      | 学校関係者評価                                                                                                                        | 成果・課題と次年度の対策                                                                                                                                                                                                                                     |
|----------|----------------------------------------------------------------------|-------|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|          |                                                                      | 取組指標  | 成果指標 |                                                                                                                                       | 取組指標  | 成果指標 |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 楽しい授業の実践 | 授業のねらいの明確化や児童に考えさせるための発問、ICTの活用をポイントとして、年3回の公開授業を行う。                 | 3     | 3    | ▲課題：一人一人に合った学習課題ではなく全体の課題になっていることが多かったり、一人一人に課題をもたせることができる教科とそうでない教科があったりする。<br>⇒教科の特性や学習内容にもよるが、できるだけ一人一人にあった課題をもたせることができるように意識していく。 | 4     | 3    | ・学校ホームページが充実しており、玉川上水や近隣の高齢者施設とのかわり、うど農家との連携など総合的な学習の時間の取り組みの様子がよく分かるようになった。こどもたちも課題をしっかりとち、楽しんで学習に取り組んでいる様子がうかがえた。            | ▲課題：学年や教科の実態によって、一人一人に課題をもたせることが難しい。<br>⇒教科の特性や学習内容にもよるが、できるだけ一人一人にあった課題をもたせたり、自己選択や自己決定する場を設定したりすることができるようしていく。<br>▲課題：授業や学校生活の様々な場面で活用されているが、利用頻度や活用技能に差がある。<br>⇒引き続き、情報教育推進委員会を中心に、ICTに特化したブチ研修会などを実施し、利活用を円滑に進めていく。                          |
|          | 活用のねらいを明確にして、学習者用端末を活用する。                                            | 3     | 3    | ▲課題：どのような場面で学習者用端末を有効に活用できるかを把握できていない教員がいる。<br>⇒ICTに特化したブチ研修会などを実施し、利活用を円滑に進めていく。                                                     | 3     | 4    |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 学力向上     | 年間を通して、週1回の上宿タイム、週3回の読書タイム、毎月の詩の暗唱に取り組む。東京ベーシック・ドリルの診断テストで正答率を8割にする。 | 4     | 1    | ▲課題：教師の取り組みとそれに対する児童の成果に大きな差が見られる。現在の取り組みが成果に繋がっていないことが分かる。<br>⇒来年度に向けて、朝学習の時間を増やす。以前のようにベーシックドリルのプリントに取り組む時間を増やすなどの取り組みを行うことを検討する。   | 4     | 2    | ・放課後こども教室では、学校と連携し、児童に合ったプリントを教員に用意してもらい、月3回学習支援を行っている。その際、みとったことを教員に伝え、児童の学力向上につなげている。朝学習の補助を行っている学年もあり、来年度、さらに他の学年にも広げていきたい。 | ▲課題：診断テストの結果が約10%上昇したが、正答率が低い単元や領域が依然として存在している。<br>⇒来年度、上宿タイムの回数を増やしたり、すぐに取り組めるデジタルドリルの活用を推し進めていく。また、診断テストで明らかになった児童の苦手な分野を中心に取り組めるようにしていく。<br>▲課題：詩の暗唱について、個別に聞く時間を設けることができず、できているかの確認が十分できていない。<br>⇒月末に一人一人暗唱できているかを確認する時間を取るなど具体的な取り組みを行っていく。 |
|          | 詩の暗唱と学年に応じた読書の目標設定を行い、年間の目標を達成する。                                    | 3     | 4    | ▲課題：年間の学年目標については声掛けしているが、図書の時間を確保するのが難しく、徹底はできていない。<br>⇒2学期の読書旬間を活用するなどして、児童の読書量を増やし、目標を達成できるようにする。                                   | 4     | 3    |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 健全育成     | いじめを題材にした道徳の授業を全学級で学期に1回実践し、いじめの未然防止の取組を行う。                          | 4     | 4    | ▲課題：ふれあい月間を利用し、全学級でいじめを題材にした授業を行っているため、特に課題はない。<br>⇒2学期のふれあい月間でも引き続き行ってい、いじめの未然防止に努めていく。                                              | 4     | 4    | ・地域や放課後こども教室での様子を見ていて、いじめではないかと感じることはない。以前に比べ、肉体的なものから精神的なものへと変化しているため、いじめアンケートを取るだけでなく、日頃の様子もしっかり観察していく必要があるのではと感じた。          | ▲課題：いじめの題材がふれあい月間とずれている学期があり、急遽、いじめに関する題材を設定することがあった。<br>⇒年度初めに、もう一度年間指導計画を見直し、各学期にいじめを題材にした内容が入っているか確認する。                                                                                                                                       |
|          | 毎月児童にアンケートを取り、内容に応じて面談をして実態の把握を行い、組織的に対応する。                          | 4     | 4    | ▲課題：アンケートをとり、状況に応じて指導していくとともに、必要に応じてサポート会議で取り上げ、情報共有を進めているので、特に課題はない。<br>⇒今後も引き続き、丁寧な聴き取りと学校全体での対応を行っていく。                             | 4     | 4    |                                                                                                                                | ▲課題：これまで同様、月1回アンケートをとり、状況に応じて指導していくとともに、必要に応じてサポート会議で取り上げ、情報共有を進めている。該当児童への声掛けも適宜行っていて、特に課題はない。<br>⇒今後も引き続き、丁寧な聴き取りを行い、学年や学校全体での対応を行っていく。                                                                                                        |
| 体力向上     | めあてをもち、運動へ取り組み、振り返るという学習の流れを体育の学習で実践する。                              | 4     | 3    | ▲課題：学習カードやICTを利活用しながら、めあてから振り返りまでの流れを意識しながら学習できていて特に課題はない。<br>⇒今後も、学習カードやICTの利活用を進めるとともに、振り返りの内容を共有するなどしてよりよい学習ができるようにしていきたい。         | 4     | 4    | ・放課後こども教室との連携で「投げる力」が向上した。運動する児童としない児童、運動が得意な児童と苦手な児童の二極化が進んでいると感じた。                                                           | ▲課題：これまで同様、学習カードやICTを利活用しながら、めあてから振り返りまでの流れを意識しながら学習できている。振り返りの内容もめあてや自己の課題に即したものに高まってきていて、特に課題はない。<br>⇒今後も、学習カードやICTの利活用を進めるとともに、他教科や領域でも、この学習の流れで取り組めるように指導していきたい。                                                                             |
| 地域との連携   | 生活科、総合的な学習の時間に地域とのかわりを生かした学習を各学年で実践する。                               | 4     |      | ▲課題：農園活動などを中心に地域の方との交流を行い、充実した活動ができている。まだ、地域との交流がない学年もある。<br>⇒2学期以降、どの学年も地域人材を生かした学習を計画し、実行していく。                                      | 4     | 3    | ・一部のボランティアばかりが授業支援に入ることが多く、負担の偏りを感じた。今後のことも考えると、保護者のかかわりを増やしたり、若い人材をもっと開拓したりしていく必要がある。                                         | ▲課題：農園活動や小川用水、福祉体験、保健指導、朝学習指導など、様々なところで地域の方との交流を行ったり、学習支援をしていただいているので、特に課題はない。<br>⇒今年度の関りを引き続き継続していけるよう、連絡先や取り組み内容などをしっかりと引き継いでいく。                                                                                                               |
|          | 年間9回の学校運営協議会を開催し、プロジェクトチームを中心に検討し、具体的な取組を行うとともに教育課程説明会を実施する。         | 3     | 4    | ▲課題：担当の教員を中心に、積極的に会議に参加している。まだ会議に参加していない職員も多くなる。<br>⇒2学期以降も積極的に会議に参加し、情報交換をしたり、プロジェクトを行ったりしていく。                                       | 2     | 4    |                                                                                                                                | ▲課題：年1～2回の参加だと状況を把握しづらい。学校経営協議会の活動内容を十分に理解できていない。<br>⇒学校経営協議会の情報を全教員が見ることのできるチャットに流すとともに、夕会での報告を行い、共通理解を図ることができるようにする。                                                                                                                           |
| 働き方改革    | 下校時刻を早め、学年で相談する時間を確保する。月50時間を超える時間外勤務をなくす。                           | 2     | 4    | ▲課題：さらなる会議の効率化を図り、学年で話し合える時間を生み出すとともに、全容がまだ分かっていないおまかせ校務などの新システムの使い方を明確にする必要がある。<br>⇒会議の内容を精選するとともに、おまかせ校務の使い方を今年度中に明確化する。            | 4     | 4    | ・授業支援ボランティアやICTの活用により、学校と地域が連携して教育活動を行うことで、以前に比べ、教員の働く環境も改善してきているように感じた。                                                       | ▲課題：ICTを活用した教材研究や準備、校務や会議の時間短縮を行っているが時間外勤務をなくすのは難しい。<br>⇒今後も、ICTを活用した教材を準備し、学年間や年度を超えて共有できるようにしたり、授業以外の業務を効率的にできるように分掌の再編成などを行ったりして、校務改善を図っていく。                                                                                                  |